

福山の文化財

2025年度の文化フォーラムでは、「福山の文化財」をテーマに4回の講演を開催し、新たな調査・研究の成果も踏まえながら、歴史資料、仏教美術、神社建築の3つのポイントから福山の文化財とその魅力に迫っていききたいと思います。また、福山市における文化財の保存と活用の「今」についても紹介します。

第1回

近年の福山市内の文化財保存・活用について

日時 10月11日(土) 14:00~16:00
会場 学校法人福山大学 社会連携推進センター3F 301
講師 榎拓敏氏(福山市文化振興課 課長)

福山市では、市内に所在する各指定・選定・登録文化財の保存と活用のため、各種の取組を進めています。2024年度には、文化財の保存活用の方向性を定める「福山市文化財保存活用地域計画」を策定し、官民一体となった文化財を活用した地域の活性化に取り組んでいます。近時に行われたこれらの取組を通して、福山市が持つ豊富な歴史文化を、市民の宝として活用する取組を紹介します。



第2回

神辺本陣と福岡藩 —神辺本陣資料の調査から—

日時 10月25日(土) 14:00~16:00
会場 学校法人福山大学 社会連携推進センター3F 301
講師 柳川真由美(福山大学人間文化学部 教授)

神辺本陣と福岡藩との関わりは古くから知られていましたが、2023年度まで実施された神辺本陣資料の調査と福岡藩側の記録の再確認によって、これまで知られていなかった両者の関係が明らかになりました。神辺本陣は、福山はもちろん遠く福岡の歴史にとっても重要な文化財といえます。この講演では、史料を読み解きながら神辺本陣と福岡藩の関係について再考していきます。



第3回

仏像を深く味わう —備後の仏像から—

日時 11月8日(土) 14:00~16:00
会場 学校法人福山大学 社会連携推進センター3F 301
講師 濱田宣氏(徳島文理大学名誉教授)

仏像は、信仰の対象として崇められていますが、芸術鑑賞の対象としても広く親しまれています。インドで一世紀代に誕生した仏像は、仏教とともにアジア諸地域において展開し、日本へは6世紀代に伝来しました。日本の美術及び精神文化の基盤ともなった仏像の様々な表現の意味について知ることは、先人たちの生きた時代の証を知る一つの糸口ともなります。備後地域の仏像を通して、仏像の表現や歴史について紹介します。



第4回

福山の神社建築 —中条八幡神社本殿にみる地域性—

日時 12月6日(土) 14:00~16:00
会場 学校法人福山大学 社会連携推進センター3F 301
講師 山口佳巳氏(比治山大学現代文化学部 講師)

新たに福山市重要文化財に指定された中条八幡神社本殿(神辺町)は、元禄12年(1699)に建築された当初の姿をよく伝えています。この本殿を特徴づけているのは華やかな細部装飾であり、その中でも十二支の彫刻を配した墓股や、若葉をかたどった意匠に地域性が見られます。本講演では、中条八幡神社本殿を中心として、福山地域の神社建築の特色を深掘りしていきます。

